

「セルインメイ」、5月に株が下落するのは本当?

text by Akio Tanaka

文 田中 晶雄

「セルインメイ」

これは株価の季節習性に基づいたウォール街の相場格言であり、「5月には売り抜ける。秋まで市場に戻ってくるな」という意味だ。そのころになると米国株には売り物が出て相場が変動をきたし、それが日本株にも影響する、と警戒する声は日本の市場でも多い。

しかし「セルインメイ」、この言葉の真意は、5月に下落するという意味ではなく、「夏場は、株価が軟調になるので、その前の5月に株を売って、夏場は株を持たずに9月の中頃に再び株式投資を始めなさい」なのである。これは、5月に一旦高値をつけるので、ここで売っておくという意味であり、日本では使われている5月は株価が下落するという意味とは、正反対だ。例年、5月の大型連休明けから各社の決算発表が本番を迎え、中旬には企業の業績の大勢が判明すると、そこに「セルインメイ」の言葉も流れたりして、「市場の高揚感が一段落↓株価も調整」いうケースが多い。では、実際に過去30年の株式市場において「セルインメイ」、

この格言が当てはまるか、筆者独自で検証した。その結果、5月は本当に下落しているのかという点、実は、日経平均もNYダウも上昇しているほうが多く、良いパフォーマンスを上げているのに絶好の月なのだ。

だが、しかし、今年是为替など環境の不透明感、投資家心理の冷え込みなどモヤモヤしたものが漂っている状況で、市場心理は3月の株価の暴落からの4月以降の戻り相場になお懐疑的である。現在、日経平均が2万2000円台半ばでいることが象徴的だ。このことから5月に入り、株価が上昇することに筆者は懐疑的だ。そう考えさせられるのは無理もない。米国と中国という二つの大国の「貿易戦争」だけでなく、実際にミサイルが飛びかかったシリア攻撃が行われた。4月27日に行われた南北朝鮮の首脳会談は、6月初旬までに行われるとされる米朝首脳会談の「前座」にすぎない。その一方で、11月の中間選挙を前にドナルド・トランプ米大統領が必死のツイッター「口撃」をしている。しかも5月はその他の各国首脳会談が目白押しで

ある。さらには、度重なる不祥事の発覚による安倍晋三政権が支持率低迷…という状況では、手放しのリスクオンというわけにはいかないからだ。

いま世界にはどんなリスクがあり、金融市場は何を警戒しているのかに敏感にアンテナを張り、リスク管理を行うことは投資家にとって重要である。それに加え、株式投資をする上でこれまでの歴史から生まれた相場格言に注目し、現状の相場と比較、検証することもまた、面白く、一つの醍醐味である。

*2018年5月6日時点の執筆です。



Profile

平成3年2月26日生まれ
慶應義塾大学経済学部卒業後、外資系証券投資銀行部を経て、株式会社HALXAS Capital等を創業。日本株のトレーディングや資金調達、M&Aのコンサルティングを手がける。趣味は野球と低位株投資。